

なぜ国を護りたいと思ったのか

2月11日建国記念の日に「第16回くにまもり演説大会」を開催。1374名のエントリーをいただき、予選を勝ち抜いた8名が素晴らしい演説を披露してくれました。会場にお越しいただいた方とオンライン視聴の方、合わせて約1500名の方に演説を聴いていただき、日本について考える貴重な一日となりました。今回は私が「くにまもり」をしていこうと決意したきっかけをお話したいと思います。



高

校生までの私はNBAを筆頭にアメリカに憧れを抱き、日本に対してはどちらかというと「ださい」というイメージを持っていました。

28歳のときに先輩の勧めで、初めて靖國神社を参拝しました。246万6千余柱のご英霊が祀られていると知り、その数のご多さに衝撃を受けました。特に先の大戦では213万人以上の方が亡くなりました。中でも特攻隊の方々の多くは、当時の私よりも若い10代から20代前半で日本のために命をかけて飛び立った事実を知り、時代とはいえ彼らは命をかけて何を護りたかつたのだろうかと考えようになりました。

その後も靖國神社や遊就館に何度も足を運ぶうちに、もつと多くの若者にこの事実を伝えなければならぬと思い、1月3日に多くの若者を連れて参拝することが恒例となりました。最初は70名ほどだった参加者が700名を超えるようになり、80年前に日本のために命をかけた同世代がいたことを知る機会になっています。

会社を立ち上げてからは「保守」とレッ

く

テルを貼られてビジネスの足枷になると、各方面から指摘されたこともありましたが、故・中條高德先生（アサヒビール名誉顧問）に出会い、自分の思うことを堂々と主張し公のために働く方が、お金を稼ぐ力だけに特化したビジネスマンよりかっこいい生き方だと思い、参拝を止めることはありませんでした。

にまもりへの想いが揺らぎないものになったのは、チベット文化研究所名誉所長（当時）のペマ・ギャルポ先生との出会いがきっかけでした。ペマ先生と交流を深める中で、中国が条約を破り、故郷であるチベットに人民解放軍が侵略してきたときの状況や、亡命の途中で家族や知り合いが殺害されたことなど、胸が痛くなるお話を聞かせていただきました。

チベットは仏教の国でダライ・ラマ法王を筆頭に多くの僧侶がいました。チベット国民は僧侶を心から尊敬し、平和を祈り続けていました。しかし、人民解放軍は6254か所の僧院や寺院を破壊。僧侶だ

けではなく、120万人のチベット国民を虐殺しました。ペマ先生からは「平和を祈るだけではなく、国防や国益を理解しているリーダーがいらないといずれ国は滅びてしまう」と教わりました。

自分が日本のためにできることは何かと考えたときに、たどり着いた答えが「教育」でした。「金を遣すは下、事業を遣すは中、人を遣すは上」という後藤新平の言葉にあるように、公のために働くことがかっこいいと思う若者を増やすことは、非常に尊いことだと気づけたのです。

年齢を重ねると、私が発信しても若い方々には遠い世界の話だと思われてしまいます。そこで、同世代の20代に日本への想いや行動を語ってもらうために開催しているのが「くにまもり演説大会」です。

時間はかかるかもしれませんが、公のために働くかっこいい若者を増やしていくことが、私が日本のためにできる最大の貢献だと信じ、今後社会で活躍する若手リーダーを輩出し続け、くにまもりの輪を広げていきたいと思っています。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
MURODATE Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。ブータン王国立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパン講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。